

博友会 だより

Hakuyukai - Dayori
医療・看護・介護を通して
地域に貢献いたします



北の峰病院の周りには
6匹の子ダヌキたちが遊びに訪れます

働き盛りの人でも発症します！ 若年性認知症

医療法人社団博友会 平岸病院 精神科 **高橋 伸幸** 医師

医療法人社団博友会は5つの施設で社会貢献しています



平岸病院

精神科・神経科・内科
神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院

精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑

入所・短期入所
通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



平岸クリニック

精神科・神経科・心療内科・内科
リハビリテーション科・デイケア・ナイトケア
赤平市平岸新光町1丁目1番地
TEL: 0125-38-8393



共同生活援助事業所グループホーム博友荘

入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077

働き盛りの人でも
発症します!

若年性 認知症



認知症は、高齢者だけが発症するものだと思いませんか？ 現実には、若者や働き盛りの世代でも発症する可能性があります。18歳から64歳で発症した認知症は「若年性認知症」と呼ばれています。患者さんが苦しむだけではなく、経済的な問題、介護の問題など、家族に負担が重くのしかかる社会的に大変な疾患です。



医療法人社団博友会
平岸病院 精神科

高橋 伸幸 医師

昭和43年 千葉県松戸市生まれ
平成4年 慶応義塾大学商学部卒業
平成5年 船橋市役所勤務
平成21年 熊本大学医学部卒業
平成21年 市立赤平総合病院研修医
平成22年 市立三笠総合病院研修医
平成23年 平岸病院精神科勤務

若年性認知症の原因は さまざま

「若年性認知症」は、原因や症状がさまざまです。原因の中で多く報告されているのは、血管性認知症、アルツハイマー病、頭部外傷性認知症、前頭側頭葉変性症な

どです。

原因に応じて、ふさわしい治療法をできるだけ早く選択することが大切です。ある時から急に「物忘れがひどくなった」「計算ができなくなつた」といった症状が出てきた場合は、すぐに専門医の診断を受けるようにしましょう。

認知症を引き起こす原因疾患の例

- 変性疾患：アルツハイマー病、前頭側頭型認知症など
- 血管性認知症：脳梗塞、脳出血など
- 感染性疾患：脳炎後遺症など
- 代謝内分泌疾患
- 外傷および脳外科疾患：脳腫瘍、正常圧水頭症など
- 中毒性疾患

若年性認知症

は、社会的な認知度が低く、発症していても気づかず治療が遅れることがあります。大切なのは、いたずらに認知症を恐れないことと、家族で抱え込まずに周りの協力を得ることです。

血管性認知症

脳梗塞や脳出血などによって、脳の神経細胞が障害されて起こる認知症です。意欲の低下、抑うつ、物忘れなどで始まる 경우가多く、感情が不安定になることもあります。

アルツハイマー病

脳内にアミロイドたんぱくという異常な物質が沈着するために、神経細胞が死んでしまい、脳が萎縮するために起こると考えられている認知症です。「物忘れ」が現れ、時間や場所の観念が失われ、抑うつや人格変化を伴うことがあります。また、せん妄、幻覚、妄想、不安、焦燥感、徘徊、暴行などさまざまな症状が見られます。

滝川市立病院

診療科／内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、精神神経科、麻酔科（ペインクリニック）、放射線科、リハビリテーション科
 病床数／314床（一般病床270床、精神科病棟44床）

診療時間／ 8:30～12:30
 13:30～16:00

※各科、曜日により異なるためお問い合わせください

休診日／土日祝

〒073-0022

滝川市大町2丁目2-34

電話 0125-22-4311

<http://www.med.takikawa.hokkaido.jp/>



滝川市立病院が、2011年3月にリニューアルオープンしました。アメニティや救急医療・救急救命体制がより充実し、中空知地域の基幹病院としての機能が強化されました。

専門外来も充実

外来には、10の専門外来を開設。糖尿病外来、小児心臓外来、腎不全外来、腎臓内科外来、乳腺・甲状腺専門外来、膝関節外来など、多様化する患者さんのニーズに応えます。

また、検査・治療機器も最新のものを備えており、中空知地域の医療機関からの患者さんの受け入れ体制を整えています。

安心して快適な環境を提供

新病院では、外来・入院ともに患者さんが快適に過ごせるように配慮されています。

待合ホールは広く開放的につくりですが、小児科には、独立した専用待合室が用意されているので、周囲に気兼ねなく受診することができます。

病室は、個室がこれまでの21室から77室に増え、シャワー付きの特別室も用意されています。

アメニティに配慮した空間



シャワー付きの特別室

堤 明人院長

2011年4月に院長就任。千葉大学医学部卒業。筑波大学大学院人間総合科学研究科学准教授などを歴任。日本内科学会認定内科医。日本リウマチ学会専門医・指導医。医学博士。



充実した検査体制



DSA（血管造影）装置



MRI（磁気共鳴断層撮影）装置



開放的な外来ホール

透析・救急受入



CT（コンピュータ断層撮影）装置



マンモグラフィー



25床のベッドがある透析センター



休日夜間救急外来



平岸病院

渋谷ギター合奏団
ドルチェ
慰問コンサート

7月3日



札幌に拠点を置く渋谷ギター音楽院の講師と生徒で構成された「渋谷ギター合奏団ドルチェ」が、平岸病院で慰問コンサートを開催しました。

この日は、大学生から70代までの19人のメンバーが、「コンドルは飛んでいく」「シバの女王」「エスパニア・カーニ」といったギター合奏曲の見事な演奏を披露。会場となった第1病棟の1階ホールに集まった患者さんたちは、繊細で力強いギターの音色に聞き入っていました。

心が癒される芸術を楽しみました

介護老人保健施設
博寿苑

東日本大震災復興支援
赤平
チャリティー
コンサート

7月5日



ヴァイオリン奏者板垣登喜雄さんが主宰するヴォアラレ弦楽四重奏団が奏でる演奏曲に合わせて、バレリーナの近藤文子さんが創作ダンスを披露するコラボレーションコンサートが、4階レクレーションルームを会場に開催されました。

披露されたのは、ハイドン作曲の弦楽四重奏曲Op.54の1から第1楽章「ひばり」やチャイコフスキー作曲の弦楽四重奏曲第1番「長調」Op.1から第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」など。優雅な音色と華麗な舞に大きな拍手が湧き上がりました。



博友会に訪れた アーティスト

今回、医療法人社団博友会のコンサートには、第一線で活躍するアーティストが訪れました。

ギタリスト 渋谷 環さん



渋谷さんは、2歳10カ月でピアノを始め、5歳からギタリストの父・渋谷忠三さんからギターの手ほどきを受けます。多くの世界的ギタリストに指導を受け、1977年日本ギタリスト協会新

ドルチェと平岸病院の橋渡し役

渋谷ギター合奏団ドルチェ メンバー

(有)赤平公益社 代表取締役社長 真田 敏幸さん



中学生の時にクラシックギターを始め、今は渋谷ギター音楽院で学んでいます。慰問コンサートでは、「枯葉」を独奏。人生の後半をギターとともに楽しんでいきます。

人賞（現・クラシカルギターコンクール）を最年少（16歳）で、かつ女性初の受賞を果たします。1979年に18歳でデビューリサイタルを開催後、全国各地で演奏活動を行っています。また、札幌で渋谷ギター音楽院を主宰し、その教え子を中心に「渋谷ギター合奏団ドルチェ」を結成。「ギターを通じて、年齢や職業を越えた出会いがあり、人生が豊かに広がります。そして、音楽は人生を彩り、思い出とともに存在し、心を癒します」と音楽の魅力を語ります。

ヴァイオリニスト 板垣 登喜雄さん



板垣さんは、赤平市大町生まれ。赤平小学校、赤間小学校、赤平中学校を経て、赤平西高等学校を卒業するまで赤平市に住んでいました。

9歳よりヴァイオリンを習い、

東京音楽大学を卒業後、東京フィルハーモニー交響楽団に入団。1978年から国内外でコンサート活動を開始しました。国内外で高い評価を得ている音楽の早期教育スズキ・メソッドでヴァイオリン教室を開催する傍ら、「ヴォラール・カルテット」を結成し、各地で演奏活動を行っています。

日本弦楽指導者協会会員、埼玉文化団体連合会会員、日本クラシック音楽コンクール・千葉国際ジュニアコンクール等の審査員。埼玉県在住。

バレエダンサー 近藤 文子さん



近藤さんの両親は、2人とも赤平市の出身。幼いころに赤平公園でいとこたちと遊んだことや、赤平社に初詣へ行ったことなど、赤平には楽しい思い出がいっぱいあるそうです。

近藤さんが発表しているのは、「リーフレット・ダンス」というバレエダンスパフォーマンス。人間の美しい動きを研究し、その動きと音楽を結びつけて表現するものです。札幌を拠点に、全国各地で公演活動を行っています。

2011年11月11日には、札幌市南区に「美術と音楽と踊りの記憶を残す為の記録の場・リーフレットミュージズ」（ギャラリーと多目的ホール、バレエスタジオを兼ね備えた施設）をオープンさせる予定です。



博友会の歴史は CT発展の歴史

理解されなかったCT導入

昭和51年に過疎地の精神科病院がCTを導入したことは、神経放射線学の第一人者・ハーバード大学のニュー教授だけでなく、日本の多くの医療関係者にも理解されませんでした。

しかし、昭和52年の北海道精神神経学会で、800例の症例を当院の高橋克世先生とともに発表。「精神科病院では、脳神経に変化のある病気なのか、変化のない精神病なのかを鑑別するために、CT検査は必須である」ということを多くの誤診例を挙げて主張しました。現在、精神科においてCT検査

は重要な位置を占めています。

余談ですが、最初のCTを導入したとき、CT検査は保険診療が未承認で、大きな赤字を覚悟していました。しかし幸運にも、ほどなく社会保険で代替請求が承認され、今では考えられないほどの高額な検査料が支払われることになりました。そのおかげで数年を経ずして、CTの償却を終えることができたのです。

臓器をあらゆる角度から

CTの性能は、第1世代、第2世代と進むごとに目覚ましい進化を遂げており、現在の主流は第4世代。今年平岸病院に導入した高速マルチスライス高解像度CTは、わずか数秒で、頭部・胸部・腹腔・骨盤腔の臓器をあらゆる方向から見ることが出来ます（参考のために私の「腹の中」の写真をお見せします）。私が医学生だったころには想像すらできなかった画像診断技術の進歩です。

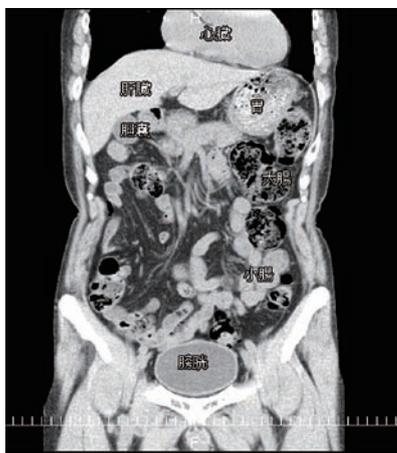
また、CTでは見えない組織を見ることが出来る1・5テスラのMRI装置も導入していることから、平岸病院は、予約なしにいつでも検査が可能で、全国的にも例のない施設になっている

と思います。さらに現在、地域医療に貢献するための健康診断体制を準備しています。

博友会では、新世代のCTが登場するたびに更新を行っています。博友会の歴史は、CT発展の歴史とともにあり、「博友会物語」は「博友会CT物語」といえるかもしれません。【続く】



CT検査を受けている私



CTで見た「私の腹の中」

北の峰病院

札幌医科大学医学部
神経精神医学教室夏季交流会
7月30日に開催

恒例の札幌医科大学医学部神経精神医学教室夏季交流会が、7月30日に北の峰病院で開催されました。

同会は現役医師と医学生が交流し親睦を深めるもので、会場となった研修室には、齋藤利和教授ほか、教室員、同門会員、精神科を志す研修医・学生など、総勢53人が集まりました。

佐々木竜二副教室長の開会宣言後、北の峰病院の久保昌己院長が歓迎挨拶を行い、4人の医師が講演しました。ペテラン医師として壇上に立った谷博理事長は、道内で最も早くCTを導入した経緯や精神科診療における画像診断の重要性を述べました。

参加者した学生らは、医師の人生観や将来像を唆する内容に傾きながら耳を傾けていました。

